



独立行政法人 国立病院機構

四国こどもとおとなの 医療センター

アートプロジェクト



レストラン棟壁面イルミネーション設置風景



2014年 12月号

一院内の小さな声から一

絵手紙作品展の準備のために、複雑にからまったつり紐をほどいていると、ボランティアのAちゃんがやってきました。少し元気がありません。顔色もあまりよくないようです。話を聴くと、どうやら卒論のテーマが決まらないこと。就職活動がうまくいかどうか不安。という二つの悩みを抱えているようです。以前仲のいい大学の先生が話してくれた卒論指導をする時のエピソードを思い出しました。「学生はネットや書物からうまく情報を集めてくれるけれど、大切なのは上手な論文を書く事ではなくてその生徒にしか書けないことを書くことです。それができれば、たとえ高い評価が得られなくてもその生徒にとって一生の宝物になります。」その話をAちゃんにしながら、立派なものを一度に完成させようと思ったらすごく大変だけど、まずは今の自分が気になることをちよつとずつでも箇条書きに書いてみたら？今の自分にできることに精一杯取り組んでたら、また何か見えてくるかも。と話しながらふと、自分を励ましているような気持ちになりました。Aちゃんはいつの間にか、からまったつり紐を綺麗にほどいてくれていました。お互いに「ありがとう」と言い合って別れました。

クリスマスイルミネーションの裏話 2014

レストラン棟壁面のイルミネーションは香川小児病院時代から使用していたものです。かなり古いものなので重たく、LED電球ではないものも混ざっています。ですが今年は事務局の皆さんと防災センターの皆さんがたくさんお手伝いしてくださったお陰で高い位置にも設置する事が出来、大きな壁面に迫力のある光の壁画が完成しました。壁画には雪の結晶と一緒に鳥たちが(これは院内にも描かれている鳥たちで希望の象徴です)サンタクロースと一緒に病院にやってくる奇跡のプレゼントを届けてくれる。というお話になっています。今年はそのイルミネーションに加えて正面玄関に親子2体のスノーマンが登場しました。おとなのスノーマンの胸にも、こどものスノーマンの胸にも成育外壁に描かれたハートの木の実が輝いています。おとなの病棟にもこどもの病棟にもあたたかい心を届けるのがスノーマン達のお仕事です。ですがこのスノーマン、来院早々大変な目に遭ったのです。12月1日、巨大な段ボール箱から数人掛かりで取り出されたスノーマンは、上半身と下半身に分かれていました。極寒の中その体をつなぎ合わせて、地面と固定し、盗難防止用のチェーンも取り付け、やっと完成。満足して帰りかけたその時、もの凄い強風が。スノーマンは倒れ、顔面を強打しました。一瞬の出来事に現場は凍り付きました。面影もないほど粉々に飛び散ったスノーマンのかげらが遥か彼方で光っていました。かけらを集めながら、企画課長さんは「。。。けど、直すしかない！修復する材料買ってこよう。」とすぐに気持ちを切り替えられました。部下の皆さんもその言葉に従って、すぐに修復作業のための準備をスタートしました。結局10人ほどの職員さんが交互に智慧を出し合って20時ごろまでかかって瞬間接着剤と天蚕糸と樹脂で、なんとか修復する事が出来ました。職員さん達の愛情のこもったオペ(手術)のお陰です。「顔面複雑骨折」という大変な苦勞を乗り越えたスノーマンが放つ光は、それまでよりも深く、頼もしく輝いて見えました。

今月の一枚

作家: 山本 順子

「鳩」

